

科目名	ビジネスマネジメント基礎						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	南 玲子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	経営ビジネス科1年						
授業概要	チームで仕事をする上で求められる企業や組織に関する必要最低限の知識を理解し、実際にチームで働くワークを体験することで、リーダーとして必要なことを理解する。また、毎回自分の行動の振り返りを行うことで、チームに協力するために必要な行動を学ぶ。						
	iCDタスクコード		SP02.12.5				
授業形式	講義:	演習:	○	実習:	△	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○			組織におけるリーダーシップとフォロワーシップについて説明できる	
	○	○	○			メンバーと協力してグループ活動が行える。	
	○	○	○			目的に合ったグループ活動を計画・実施・改善できる	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルテキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	マネジメントとは、チームリーダーに求められる資質					
	2	企業とは、リーダーシップとフォロワーシップ					
	3	自己診断・4つのタイプ分け、メンバーによく起こる心的状況				グループ活動について考える	
	4	企業における仕事の進め方(PDS)、目標設定について					
	5	報告・連絡・相談の重要性、報連相ゲーム					
	6	グループ活動①(Plan・計画)、レビュー				グループ活動について考える	
	7	グループ活動①(Do・行動)				グループ活動について考える	
	8	グループ活動①(Do・行動)					
	9	発表/振り返り(See・振り返り)					
	10	グループ活動②(Plan・計画)、レビュー				グループ活動について考える	
	11	グループ活動②(Do・行動)				グループ活動について考える	
	12	グループ活動③(Do・行動)					
	13	発表/振り返り					
	14	振り返り					
15	振り返り、まとめ						
評価方法	(1)レポート:チーム活動時に提出するレポート (2)課題:チーム活動の成果物 (3)出席状況・態度 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。再試験は実施しない。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート		○				30%
	課題		○				50%
	出席状況・態度		○		○		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	データ分析						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	吉田 裕幸		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	経営ビジネス科1年						
授業概要	<p>前期に培った論理的思考力とともにビジネスで必要とされる統計・データ分析力の基礎を身につける。また、代表的な統計の用語や考え方、Excel操作を身につける。</p> <p>iCDタスクコード : EX02.1.2、EX02.5.1、EX02.5.2、EX02.6.2</p>						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				分析に適したデータに整形することができる	
	○	○				代表値、分散、標準偏差を使ってデータのバラツキや傾向、異常値を把握できる	
	○	○				ピボットテーブルやグラフなどを使ってデータを可視化できる	
	○	○				データ分析による仮説・検証が行える	
テキスト・教材 参考図書	よくわかる Excelではじめるデータ分析						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1-2	オリエンテーション、第1章:データ分析を始める前に、付録:データ整形			テキストの該当箇所を復習すること		
	3-4	第2章:傾向把握			テキストの該当箇所を復習すること		
	5-6	第2章:傾向把握			テキストの該当箇所を復習すること		
	7-8	第3章:データの可視化			テキストの該当箇所を復習すること		
	9-10	第3章:データの可視化/確認テスト①			テキストの該当箇所を復習すること		
	11-12	第4章:仮説検証			テキストの該当箇所を復習すること		
	13-14	第4章:仮説検証			テキストの該当箇所を復習すること		
	15-16	第4章:仮説検証			テキストの該当箇所を復習すること		
	17-18	第4章:仮説検証/確認テスト②			テキストの該当箇所を復習すること		
	19-20	第5章:関係性分析			テキストの該当箇所を復習すること		
	21-22	第5章:関係性分析			テキストの該当箇所を復習すること		
	23-24	第5章:関係性分析			テキストの該当箇所を復習すること		
	25-26	第6章:シミュレーション			テキストの該当箇所を復習すること		
27-28	第6章:シミュレーション/確認テスト③			テキストの該当箇所を復習すること			
29-30	練習問題復習/授業内評価テスト			テキストの該当箇所を復習すること			
評価方法	(1)授業内評価テスト、確認テストを実施する。(2)課題演習:単元ごとの確認問題を解答し提出する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業内評価テスト		◎				50%
	確認テスト		○				20%
	課題演習		○		○		30%
履修上の注意							

科目名	ITサービス I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	藤澤 昌聡		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	経営ビジネス科1年						
授業概要	経営に必須となるIT知識習得を目指す。既存システムを利用したネットビジネス展開、デジタルマーケティングを学ぶとともに、新たなネットサービス構築に必要な知識を実践を通して学ぶ。						
	iCDタスクコード	ST02.2.2					
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		○		ネットショップを構築でき、運用することができる	
		○	○			製品やサービスを広く告知するためのデジタルマーケティングを実践できる	
	○					最新IT技術の概要、将来性について説明できる	
		○				IT技術を駆使した新規事業の立案ができる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	ネットビジネス概要の説明、ネットショップ開設					
	2	デザイン演習、ネットショップデザイン編集					
	3	商品開発①			販売商品に対する立案、計画をしておく		
	4	商品開発②			販売商品に対する立案、計画をしておく		
	5	デジタルマーケティング概要説明					
	6	デジタルマーケティング実践①					
	7	デジタルマーケティング実践②					
	8	Webサービスビジネス概要、ITエンジニアの仕事					
	9	最新IT技術説明と、新規ビジネス立案①					
	10	最新IT技術説明と、新規ビジネス立案②					
	11	最新IT技術説明と、新規ビジネス立案③					
	12	最新IT技術説明と、新規ビジネス立案④					
	13	最新IT技術説明と、新規ビジネス立案⑤					
	14	最新IT技術説明と、新規ビジネス立案⑥					
15	新規サービス構築③						
評価方法	(1)課題提出を評価する (2)新規サービスの立案、発表内容を評価する (3)授業への参加状況(グループワーク時の発言)。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題提出		◎				70%
	立案・発表				◎		20%
	授業態度				○		10%
履修上の注意	課題については期限を守らない場合や基準を満たさない場合は、減点または補習または追加課題を設ける場合がある。						

科目名	ビジネスアプリケーション I B						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	吉田 裕幸		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	経営ビジネス科1年						
授業概要	<p>文書の作成・保存、文字への書式設定、段落の設定、箇条書きや段落番号の設定や変更、表の作成・編集、文書の印刷など、さまざまな目的や状況に応じた文書を作成・編集するスキルを身に付ける</p> <p>iCDタスクコード SP02.12.4</p>						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				文章や文字列、段落に書式を設定することができる	
		○				表の作成や図形、オブジェクトの挿入ができる	
		○				脚注・資料文献・図表番号を挿入できる	
テキスト・教材 参考図書	MOS Word 365&2019 対策テキスト&問題集(FOM出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-2	Word基本操作、入力練習、文字、段落、セクションの書式設定					
	3-4	文字、段落、セクションの書式設定				タイピングを練習しておく	
	5-6	表やリストの作成					
	7-8	参考資料の作成と管理				表の作成、並べ替えを理解しておくこと	
	9-10	グラフィック要素の挿入と書式設定				脚注、文末脚注を理解しておくこと	
	11-13	文書の共同作業の管理					
	14-15	文書の管理					
	16-17	模擬試験実施 第1回から第5回解説				間違った問題の見直しをしておくこと	
	18-19	模擬試験実施 第1回から第5回解説				間違った問題の見直しをしておくこと	
	20	模擬試験実施 第1回から第5回解説				間違った問題の見直しをしておくこと	
	21-22	模擬試験実施 本番に合わせて時間を計り演習、解説				間違った問題の見直しをしておくこと	
	23-24	模擬試験実施 本番に合わせて時間を計り演習、解説				間違った問題の見直しをしておくこと	
	25-26	模擬試験実施 本番に合わせて時間を計り演習、解説				間違った問題の見直しをしておくこと	
	27-28	模擬試験実施 本番に合わせて時間を計り演習、解説				間違った問題の見直しをしておくこと	
29-30	模擬試験実施 本番に合わせて時間を計り演習、解説				間違った問題の見直しをしておくこと		
評価方法	(1)授業内評価テスト、確認テストを実施する。(2)課題演習:単元ごとの確認問題を解答し提出する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業内評価テスト		◎				60%
	確認テスト		○				20%
	課題演習		○		○		20%
履修上の注意							

科目名	プロモーション戦略 I						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	松尾 聡子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	イベント会社において イベント企画業務		
対象学科・学年	経営ビジネス科1年						
授業概要	SNSによる口コミや、企業のオウンドメディアなど、インターネットを介した情報発信は、これまで互いに情報を共有・拡散することで成長してきました。しかし2017年末頃から、この流れに変化の兆しが現れています。時代に合ったプロモーション戦略を学びます。						
	iCDタスクコード	CM01.2.1、CM01.2.2					
授業形式	講義: △	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				自社の知名度を効果的に上げるためのブランド戦略を立てられる。	
	○	○				ターゲット市場に製品やサービスの価値が正しく理解されるメッセージをデザインできる。	
	○	○				プロモーション戦略の手法を組み合わせる事ができる。	
	○	○				時代に合った、プロモーション戦略ができる。	
テキスト・教材 参考図書	プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	面談					
	2	プロモーション戦略とは					
	3	プレインストームの作り方			前回授業内容を復習しておくこと。		
	4	セルフプレゼンテーション①考え方			前回授業内容を復習しておくこと。		
	5	セルフプレゼンテーション②名刺作成			前回授業内容を復習しておくこと。		
	6	セルフプレゼンテーション③名刺作成			前回授業内容を復習しておくこと。		
	7	セルフプレゼンテーション④名刺仕上げ			前回授業内容を復習しておくこと。		
	8	ゆるきゃら制作①キーワードピックアップ・マーケティング			前回授業内容を復習しておくこと。		
	9	ゆるきゃら制作②下書き・作りこみ			前回授業内容を復習しておくこと。		
	10	ゆるきゃら制作③仕上げ・ゆるきゃらコンテスト			前回授業内容を復習しておくこと。		
	11	ゆるきゃら制作④プレゼンテーション			前回授業内容を復習しておくこと。		
	12	ゆるきゃら制作⑤プレゼンテーション実施			前回授業内容を復習しておくこと。		
	13	プロモーション戦略①メディア戦略			前回授業内容を復習しておくこと。		
	14	プロモーション戦略②広告			前回授業内容を復習しておくこと。		
15	プロモーション戦略③販売促進			前回授業内容を復習しておくこと。			
評価方法	講義中のプレゼンテーション(発言回数による意欲含む)、レポート提出により評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	プレゼンテーション		◎		○		60%
	レポート提出		◎				40%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	経営戦略 I						
科目名(英)	Management Strategy I						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	島田英也		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	経営ビジネス科1年						
授業概要	経営戦略の意義、経営戦略立案ステップ、戦略ドメイン、SWOT分析、経営戦略手法(アンゾフ、市場地位別、PPM)、マーケティング)を学ぶ。経営戦略Ⅱの基礎編となる。						
	iCDタスクコード	ST01.1.2、ST01.2.1、ST01.2.2、ST01.2.5					
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				経営戦略立案のステップの各段階の意味を説明できる。	
	○	○				各戦略手法の意味と活用方法を説明できる。	
	○	○				経営戦略のステップや戦略手法を活用して事例に対する戦略案を立案できる。	
テキスト・教材 参考図書	「図解で分かる経営の基本 いちばん最初に読む本」、教員レジメ						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1~3	経営戦略の意義、株式会社の仕組み、新会社法					
	4	経営戦略のフロー			前回授業内容を復習しておくこと。		
	5~7	環境分析(SWOT分析概要、SWOT分析演習)			前回授業内容を復習しておくこと。		
	8~9	ターゲットの設定方法			前回授業内容を復習しておくこと。		
	10	ターゲットの設定方法演習			前回授業内容を復習しておくこと。		
	11~12	戦略ドメイン、経営戦略(アンゾフの成長ベクトル)			前回授業内容を復習しておくこと。		
	13	戦略ドメイン、経営戦略(アンゾフの成長ベクトル)演習			前回授業内容を復習しておくこと。		
	14~15	経営戦略(市場地位別の戦略、プロダクトポートフォリオ)			前回授業内容を復習しておくこと。		
	16	経営戦略(市場地位別の戦略、プロダクトポートフォリオ)演習			前回授業内容を復習しておくこと。		
	17~18	マーケティング戦略(意義、全体像、市場調査)			前回授業内容を復習しておくこと。		
	19	マーケティング戦略(意義、全体像、市場調査)演習			前回授業内容を復習しておくこと。		
	20~21	マーケティング戦略(市場調査、製品開発)			前回授業内容を復習しておくこと。		
22	マーケティング戦略(市場調査、製品開発)演習			前回授業内容を復習しておくこと。			
23~30	ビジネスモデル立案演習			前回授業内容を復習しておくこと。			
評価方法	(1)授業の中で課題レポートと小テストを複数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題レポート		◎		○		20%
	小テスト		◎				20%
	定期試験		◎				60%
履修上の注意							

科目名	教養 I B						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	藤井 裕一		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	経営ビジネス科1年						
授業概要	就職試験に臨むためのSPI(非言語・言語)の内容を学ぶ。論理的思考を養う数学を主教科、読解力を強化する為の国語を副教科とする。						
	iCDタスクコード 該当なし						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					非言語能力問題(損益・仕事・鶴亀・速度・確率等)ができる	
	○					言語能力問題(二語関係・文法・語句・長文理解)ができる	
テキスト・教材 参考図書	SPIクリア問題集(成美堂出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	確率、精算、割引料金、言語問題					
	2	確率、精算、割引料金、言語問題				前回の復習をしておくこと	
	3	確率、精算、割引料金、言語問題				前回の復習をしておくこと	
	4	確率、精算、割引料金、言語問題				前回の復習をしておくこと	
	5	確率、精算、割引料金、言語問題				前回の復習をしておくこと	
	6	分割、推論、集合、グラフ問題、言語問題				前回の復習をしておくこと	
	7	分割、推論、集合、グラフ問題、言語問題				前回の復習をしておくこと	
	8	分割、推論、集合、グラフ問題、言語問題				前回の復習をしておくこと	
	9	分割、推論、集合、グラフ問題、言語問題				前回の復習をしておくこと	
	10	分割、推論、集合、グラフ問題、言語問題				前回の復習をしておくこと	
	11	仕事、鶴亀、損益、速さ・時間・距離、場合の数、言語問題				前回の復習をしておくこと	
	12	仕事、鶴亀、損益、速さ・時間・距離、場合の数、言語問題				前回の復習をしておくこと	
	13	参考問題、言語問題				前回の復習をしておくこと	
	14	総復習				前回の復習をしておくこと	
15	まとめ				前回の復習をしておくこと		
評価方法	(1)定期試験を実施する。(2)授業の中で確認テストを実施する。(3)課題はASOドリルレベル2国語数学の実力テストとする。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					60%
	確認テスト	○					20%
	課題	○			○		20%
履修上の注意							

科目名	キャリアデザイン						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	南 玲子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	経営ビジネス科1年						
授業概要	就職採用試験の流れを理解し、求職票受付面接の準備を行う講座である						
	iCDタスクコード 該当なし						
授業形式	講義: △	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				就職活動の流れを理解する	
		○	○			自分の良さを相手伝える自己PRが書ける	
		○	○			業界研究、企業研究、職種研究の手順を理解し、実施できる	
テキスト・教材 参考図書	就職ガイドブック(麻生塾)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	就職環境を知ろう①就職活動の流れとスケジュール					
	2	自己分析・他己分析①/身だしなみ					
	3	自己分析・他己分析②					
	4	仕事研究①会社の基礎知識					
	5	仕事研究①会社の基礎知識					
	6	仕事研究②業界と職種					
	7	仕事研究②業界と職種					
	8	仕事研究②業界と職種					
	9	求職票受付面接とは・求職票の作成					
	10	求職票の作成					
	11	求職票の作成					
	12	求職票受付面接の練習					
	13	求職票受付面接の練習					
	14	求職票受付面接の練習					
15	求職票受付面接の練習						
評価方法	(1)課題(自己PR・履歴書の作成など)を数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準はR(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	求職票提出	○	◎				40%
	面接練習	○	◎	◎	◎		40%
	授業態度、出席状況				◎		20%
履修上の注意	出席が10回(全15回)に満たない場合は単位認定できない。						

科目名	アカウンティング I A								
科目名(英)	accounting I A								
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	梶原 英彦				
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験					
対象学科・学年	経営ビジネス科1年								
授業概要	<p>企業の経済面での目的は、安定・継続・発展である。この目的が達成されているかは、数値による資料で判断される。簿記は、この数値による資料として企業に用いられている。この簿記について学習することは、将来一社会人として必要な知識となる。基本となる営業活動の分類(仕訳という)、集計、表にまとめるという一連の流れを学び、自分でできるようになることを目標とする。</p> <p>iCDタスクコード SP02.2.2</p>								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標			
		○				簿記の基本として、仕訳ができそれを集計し表にまとめることができる			
		○				仕訳、計算問題、精算表の作成ができる			
テキスト・教材 参考図書	全経簿記能力検定試験公式テキスト3級、全経簿記過去問題集3級商業簿記								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1-2	簿記について、簿記の5要素、記帳ルール、仕訳と勘定記入							
	3-4	決算手続き①、現金と預金、当座預金							
	5-6	商品売買(三分法、掛取引)							
	7-8	商品売買(返品)							
	9-10	商品売買確認テスト①費用と収益、手形							
	11-12	費用と収益、手形確認テスト②債権債務							
	13-14	債権債務確認テスト③現金、税金・引当金							
	15-16	現金・預金確認テスト④有価証券、株式発行、決算手続き②							
	17-18	有価証券・株式発行確認テスト⑤精算表、試算表							
	19-20	精算表、試算表 精算表確認テスト⑥							
	21-22	検定概要説明、過去問題演習・解説				これまでの内容を復習しておくこと			
	23-24	過去問題演習・解説				これまでの内容を復習しておくこと			
	25-26	過去問題演習・解説				これまでの内容を復習しておくこと			
27-28	過去問題演習・解説				これまでの内容を復習しておくこと				
29-30	定期試験対策				これまでの内容を復習しておくこと				
評価方法	(1)授業内で評価テストを実施する。(2)授業の中で確認テストを実施する。①回～⑤回までは仕訳5問とし、⑥回は精算1問全て6割以上の仕上がりで20%の評価とする。(3)課題は過去問題集の提出(記入・丸付けすべて完了した状態)で20%の評価とする。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	評価テスト		◎				60%		
	確認テスト		○				20%		
	課題・レポート		○		○		20%		
履修上の注意	簿記のしくみは、知識を積み重ねていく内容となるため、欠席とならないよう自己管理に努めてほしい。 簿記の授業では電卓が必要不可欠なものとなるため、日ごろから練習を要する。再試験は実施しない。								

科目名	アカウントिंग I B						
科目名(英)	accounting I B						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	梶原 英彦		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	経営ビジネス科1年						
授業概要	<p>ロボット化、人工知能化が進む社会では生産性の向上が不可欠です。この授業では、自社の製品・サービスの原価(コスト)と売上や利益を正確に把握し、生産性を高めるために必要な原価計算を行えるようになることを目指します。</p> <p>iCDタスクコード SP02.3.1</p>						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				原価計算の基本用語を説明できる。	
		○				原価の分類を説明できる。	
		○				損益計算の基礎的概念を説明できる。	
		○				CVP分析や売上高についての予算実績差異分析など利益の計画と統制についての計算が行える。	
テキスト・教材 参考図書	スッキリわかる日商簿記原価計算初級・電卓						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1-2	グループワーク(ペーパータワー)/グループワーク(貿易ゲーム)			授業の復習・間違えた問題の解き直しをすること		
	3-4	原価計算の基礎			授業の復習・間違えた問題の解き直しをすること		
	5-6	原価計算の基礎確認テスト①/CVP分析			授業の復習・間違えた問題の解き直しをすること		
	7-8	CVP分析確認テスト②/予算実績差異分析			授業の復習・間違えた問題の解き直しをすること		
	9-10	予算実績差異分析確認テスト③/原価計算の流れ			授業の復習・間違えた問題の解き直しをすること		
	11-12	材料費・労務費・経費			授業の復習・間違えた問題の解き直しをすること		
	13-14	材料費・労務費・経費確認テスト④/製造直接費と製造間接費			授業の復習・間違えた問題の解き直しをすること		
	15-16	製造直接費と間接費確認テスト⑤/製造原価の計算			授業の復習・間違えた問題の解き直しをすること		
	17-18	製造原価の計算確認テスト⑥/損益計算書とは			授業の復習・間違えた問題の解き直しをすること		
	19-20	損益計算書の作成/損益計算書確認テスト⑦			授業の復習・間違えた問題の解き直しをすること		
	21-22	原価計算初級の仕訳/仕訳確認テスト⑧			授業の復習・間違えた問題の解き直しをすること		
	23-24	模擬問題演習			授業の復習・間違えた問題の解き直しをすること		
	25-30	模擬問題演習/試験対策			授業の復習・間違えた問題の解き直しをすること		
評価方法	(1)定期試験を実施する。(2)授業の中で確認テストを実施する。(3)グループワークに積極的に取り組みグループに貢献しているかで20%の評価とする。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				60%
	確認テスト		○				20%
	グループワークへの取り組み				○		20%
履修上の注意	簿記のしくみは、知識を積み重ねていく内容となるため、復習と練習の繰り返しが重要な学習法となる。						

科目名	IT基礎						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	小森 俊昌		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	経営ビジネス科1年						
授業概要	<p>情報活用試験3級に相当する情報知識を習得する。知識習得の目安としては以下を目安とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットや情報機器、情報モラルに関する基礎知識を学び、名称と概要を説明できる。</li> <li>・該当野のIT用語を、問題説明から導き出して選択解答することができる。</li> </ul> <p>iCDタスクコード 該当なし</p>						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					情報技術に関する基礎的な専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				情報機器について、性能、特性や機能を理解し、適切に活用できるようにする。	
		○				情報社会における様々なシステムについて学び、適切に説明できるようにする。	
		○				情報モラルの用語と行動の適切性を学び、WebやSNSで適切な行動をとれるようにする。	
テキスト・教材 参考図書	J検情報活用3級 完全対策公式テキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-2	情報とデータ					
	3-4	数値データの表現法				前回の授業の見直ししておく。	
	5-6	アルゴリズム・問題解決手法				前回の授業の見直ししておく。	
	7-8	コンピュータの特徴と種類				前回の授業の見直ししておく。	
	9-10	パソコンの仕組みと性能・基本構成				前回の授業の見直ししておく。	
	11-12	OSの仕組みとソフトウェアの種類				前回の授業の見直ししておく。	
	13-14	入出力システム・記憶装置				前回の授業の見直ししておく。	
	15-16	ネットワークの基礎知識				前回の授業の見直ししておく。	
	17-19	インターネットの基礎と利用/メーラやブラウザの適切利用				前回の授業の見直ししておく。	
	20-21	アプリケーションソフトの基礎知識/ワープロソフト・表計算ソフト				前回の授業の見直ししておく。	
	22-23	データベースソフト・マルチメディアソフトの基礎知識				前回の授業の見直ししておく。	
	24-25	情報化社会とコンピュータシステム				前回の授業の見直ししておく。	
	26-27	ネットワーク社会の問題点と情報モラル				前回の授業の見直ししておく。	
	-40	過去問題演習				誤った部分の見直しをしておく	
-45	過去問題演習				誤った部分の見直しをしておく		
評価方法	(1)定期試験、小テストを実施する。(2)受講態度を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				60%
	小テスト	○	○				20%
	受講態度				◎		20%
履修上の注意							